

文京区

町会ってなんだろう?どんな活動しているの?あらぶんちよ地区の町会長にお聞きします

第22回



あらぶんちよ町会見聞録

町会に参加すると、地域に仲間ができたり、自分が住んでいるまちに対して愛着が生まれたり。まずはお祭りやイベントに参加してみよう!



△町会メンバーで制作した手作り神輿

老若男女、みんなが参加できるイベントを企画して、まちを活性化

祭事や行事は、まちの人だけでなく外の人巻き込んで、より楽しく!

田町町会 会長 野本良喜さん



●田町町会

櫻木神社祭礼用の三宝に「文久三年本郷丸山菊坂田町井筒屋伝七」の文字があることから、江戸時代より「田町」という名の組織が存在し、昭和23年から現在の町会組織に。住宅や商店を中心に、約500世帯から成り立っている。

手作り神輿から始まった 櫻木神社祭礼への想い

25歳のときに青年部を作ってから、田町町会に携わっています。当時自分と同年代の人たちは12、3人集まったのですが、先輩方が少なく、祭礼や行事への参加もあまり積極的ではなかった。町会の活動を盛り上げるためにも、みんなで櫻木神社のお祭りに向けて神輿をつくったんです。手づくりの神輿のクオリティはオーダーで作ってもらうものには及びませんが、出来るまで過程は濃密で、そこで繋がったメンバーは今も町会で活躍中です。そこから約10年後に、住民から寄付を募り、プロに作っていただいたお神輿が完成。この頃から今もずっと田町町会が櫻木神社の祭礼にか

ける想いは強く、コロナ禍で数年我慢してきた分、昨年は盛り上がりましたし、今年もみんな祭礼に向けて様々なことを企画しています。

世代を超えて 参加できる企画を

どんな年代の人も町会の活動に参加できることが重要だと思っている。祭礼期間にはみんなに声をかけて寄付で購入したわたあめ機やかき氷機などを活用し、自分たちで子ども向けの縁日も催しています。普段町会の活動とは縁遠い方たちも、この祭礼の時期に町会ってこんなこともやっているんだ!と気づいてくれる機会になるといいなと思っています。また、昨年の櫻木神社のお祭りの前には祭礼復活第一弾として「田町ことば遊び行灯プロジェクト」も開催しました。子どもたちに文字と絵を描いてもらった行燈を、お祭り当日の町内に飾るといったものだったので、これが世代を超えて、祭事



昨年の「ことば遊び行灯プロジェクト」で集まった地口行燈。応募期間中、各商店で用紙の配布をし、多くの力作が集まり、宵宮の前に菊坂下に展示した。家族みんなで作って参加できる!と、うれしい意見も。

前の制作段階から当日までとても楽しんでもらえたので、今年も開催予定です。

間口は広く

外からのメンバーも歓迎

歌を歌いながら神輿を担ぐという田町町会の伝統があるので、その姿から「楽しそうな活動をしている」というイメージがあるようで、祭礼時は160枚の貸し半纏が出払ってしまいうらい町内外から人が集まってくれます。そこで繋がった人たちが毎月第一金曜日に集まる「金曜日」や、青年部の集まりにも顔を出してくれて、仲間になってくれているのはうれしいですね。3ヶ月に1回誕生日会を開いたり、月に1回程度カラオケの集まりがあったり、年初には町会会館で餅米を蒸して餅つきをしたり、と絆を深める機会が多いのもこの田町町会の良いところ。今後も間口は広く、幅広い層から興味を持ってもらえるような活動をしていきたいと思っています。



今年、9月23日(土)・24日(日)に開催予定の櫻木神社大祭。近隣の町会も参加して、賑やかに行われそう。



学校や、近隣町会との 繋がりを活かして 多岐に渡った活動を

人と人、情報を繋ぐ役割を担う、“地域のハブ”でありたい

大塚仲町町会 会長 田中 裕之さん



●大塚仲町町会

大塚仲町町会は昭和初期に地域の親睦団体として発足後、戦争でやむなく中断。復興を願う地域の人々により昭和30年（1955年）5月に再興され、現在の形に。大塚3・4丁目の一部に位置する、会員約400人の町会。

活動内容の告知は ホームページを活用

大塚3・4丁目のエリアで地域の親睦を深められるよう、「楽しむ」「安心・安全」「支え合い」をコンセプトに、「支え合い」をコンセプトに、住みやすいまちづくりを目指しながら活動中です。3丁目は商店街があり、4丁目は比較的大きな邸宅が多いエリアでしたが、ここ数年は小売店舗の撤退や廃業、邸宅の売却や解体などが進み、まちの様子も変化してきました。40〜50代を中心にしたファミリー層も多くなったので、そのような方たちとの交流を増やしていきたいと考え、2021年からホームページを立ち上げ、広報担当が活動の告知や報告をしています。新しいマンションが建つ際には、マンション全体で



「一中祭」に大塚仲町町会はヨーヨー釣りに参加。町会員のほか、ボランティアの方たちが紙紮りを作るなどの作業をお手伝い。子ども達はうれしそうに各コーナーを回った。

町会に入っていただけけるよう、管理組合や理事長と相談の機会を持つようにしています。そういうときにもホームページを見てもいいながら自分たちの活動を紹介できるのは、大きなメリットを感じています。

周りとの交流で 生まれる新しい活動の形

今年の夏は、去年に引き続き「こども広場」という子ども向けのイベントを大塚仲町公園で開催し、ヨーヨー釣りやストラックアウトなどのゲームと数多くの景品に、参加してくれた沢山のお子さんが喜んでくれました。また、地域学校協働本部が中心となり行われた「一中祭」もとても盛り上がりました。各町会が用意するゲームコーナーや、一中の吹奏楽部の演奏、和太鼓を中心に参加者が円になって踊る盆踊り。周りの団体と交流しながら活動するからこそ賑やかですし、自分たちだけで催すのとまた違う盛り上がりがあります。



今年の3月に行われた跡見女子大学の研究発表。地域の歴史から、アンケート調査の結果を踏まえ、住みやすいまちの概念を「安心」と「顔見知り」であると捉える。

すね。そういった共催イベントから町会の活動を知ってくれる人たちが多いので、今後も積極的に開催したいと考えていて、秋には氷川下町会、大塚4丁目協力会、氷川下つゆくさ荘と一緒にハロウィンイベントも開催予定です。

町会エリア内にある 大学との取り組み

今後の町会活動を考える上で必要なことだと考え、2022年4月からこの春にかけて、跡見女子大学と協力して町会エリアの住民意識調査を中心とする合同プロジェクトも行なってきました。ゼミ活動の一環として、調査に必要なアンケートのポスティングなどは学生が担当。我々も住民への呼びかけを中心に協力しました。調査の分析や報告を通し、地域の環境も住民も変わりゆくなかで町会はどういう活動を求められているのかを知れたので、今後はそれらの結果を活かした取り組みも考えていきたいですね。

“スマホ入門講座”を定期的開催しております

現在弊社ではご加入者様限定の「初心者のためのスマホ入門講座」を開催しております。2014年9月の初回からこれまで108回の講座を開催し、約1,500名のおお客様にご参加いただきました。当講座では、スマートフォンを全くさわったことがない方向けに電源の入れ方・タッチ操作などの基礎から始め、講座の後半ではラインアプリの使い方なども体験して学んでいただけます。また、講座の最後にはお楽しみ抽選会や相談会も実施しております。スマートフォンに買い替えをお考えの方、使い方がよくわからなくて困っている方、もっと使いこなしたい方など、ご家族やご友人をお誘い合わせの上、お気軽にお申込みください。

※開催情報は、TCN ホームページにてご案内しております。



次回開催
10月26日(木)

TCNからのお知らせ①



＜藍染大通り歩行者天国50周年記念誌＞

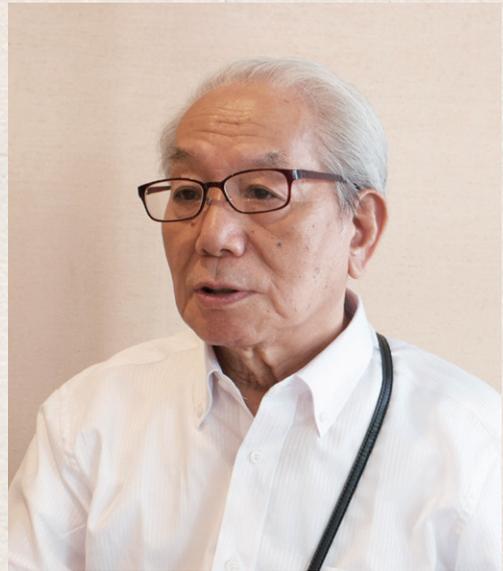
50年以上続く 遊戯道路を中心に 住民が繋がれる活動を

町の中で、お互いに声をかけられる関係性を築きたい

藍染町会 会長 吉田 禎介さん

この町の大きな特徴はなんといっても日曜・休日11時〜16時限定で歩行者天国になる「藍染大通り」です。別名「遊戯道路」とも呼ばれ、この時間、この場所でも近隣の人たちが集まりコミュニケーションをとっています。最近「藍染大通り」に新店舗や保育園もできたことから、規模ながらも多様な交流が生まれているのを目にします。この近辺に公園がないことから1972年に子どもたちのための「遊戯道路」として始まった施策ですが、50年以上経っても町内・町外、古くからいる人・新しい人、年齢関係なく、垣根を超えたコミュニケーションがとれているのは、うれしいことです。

町の中には、日曜休日に賑やかにする藍染大通り



● 藍染町会

かつて文京区と台東区の区境に流れていた「藍染川」に由来する旧町名を冠した町会。明治・大正時代からの木造長屋や細い路地が残る一方、多世代に人気のある「谷根千」エリアの町境に位置することから、最近ファミリー層も多い。町会員は350世帯ほど。



藍染大通りで行われる防災訓練は、本郷消防署・消防団との連携をしながら、防災クイズや各種体験ができる内容に。

再発見できるような活動を「遊戯道路」というくらいなので、子ども中心と思われることもありますが、実はそんなこともなく、フリーマーケットやマルシェ、野外上映会なども行なっています。マルシェでは近隣に住む方の手作りの惣菜やお菓子などが出品されて、あつという間に売り切れたり、夏はテントを建てておくとその下で井戸端会議が始まって、すぐそばではビニールプールではしゃぐ子ども等がいたり、と四季折々この通りのおかげでみんなの笑顔が見られるんです。10月14日・15日に開催予定の「根津・千駄木下町まつり」ではこの通りがサブ会場となるので、「あいそめ市」と名付けた路上マーケットや、美大生たちによるアート展示、ワークショップなどを開催する予定です。近年はそのような取り組みをメディアで取り上げてもらうことも多



「野外上映会」の様子。町会の中でも青年部が中心になり、一年を通してまちの催しの企画・運営を行なっている。

く、「自分たちの町でそんな取り組みがされているんだ！」と気づき、そこから町会の活動に興味を持ってくれるというケースもあり、うれしく思っています。

何かあったときに声をかけられる関係を作る

コロナ禍で大きな企画ができなかった時に心配だったのは、一人で住む高齢者のこと。孤独感や不安を持ちながら生活をしてきた人もいたのではと考え、改めて町会では何ができるのかを見つめ直しました。「遊戯道路」や地域サロン「アイソメ」などを中心に、ここに来たら誰かに会えるという場所や企画をつくっていきたいですね。大人も子どもも集える『サードプレイス』があることで、まちの人たちが安心して暮らせる、そんなまちづくりの一端を担えたらと考えています。

日本全国の地域情報が楽しめるアプリ「ロコテレ」

日本全国のケーブルテレビ局が制作した地域情報番組がテレビ・スマホでいつでも視聴できるアプリです。全国のお祭りやイベントの生配信もご覧いただけます！

※一部視聴できないコンテンツがあります。



ご利用方法（無料）
Android TVやFire TV Stick、iPhoneなどでアプリをダウンロードしてお使いいただけます。

■iPhone
App Storeで「ロコテレ」と検索、もしくはQRコードを読み取ってアプリをインストールしてください。



■Android
Google Playストアで「ロコテレ」と検索、もしくはQRコードを読み取ってアプリをインストールしてください。



■テレビでご利用の場合：Google Playストアで「ロコテレ」と検索しアプリをインストールしてください。

TCNからのお知らせ②

あらぶんちよかあら版

荒川区・文京区・千代田区には地域活性化のために活動されている団体がたくさんあります。そんな活動の一部をご紹介します！

文京区の新たなチャレンジを応援します！



Bチャレ(提案公募型協働事業)

区民や団体による地域課題の解決や地域活性化に向けたチャレンジを、NPO・企業・行政・教育機関などと協働で実施することへの応援事業です。

令和5年度Bチャレ「新たなつながり部門」採択団体

さきちゃんち 運営委員会

あそぶ・まなぶ・
くつろぐ・つくる・たべる

さまざまなワークをすることのできる多世代型の居場所を運営しています。



HP



小石川植物祭 実行委員会

11/3金・祝～5日
9:00～16:30

小石川植物園で、植物、植物園、まち、人のつながりをテーマにした小石川植物祭を開催します。



HP



文京アート プロジェクト

11/2木～5日

個性あふれる作品を集めた展覧会「Bunkyo Brut」を江戸川橋周辺で開催！アート・コミュニケータと巡る鑑賞会やワークショップもあります。



HP



令和5年度Bチャレ「チャレンジ部門」採択団体

ムジンレコーズ ちいさなまちの音楽会

9/30日 9:00～16:30

子どもたちが音楽に触れる機会を作る音楽イベントを開催します。親子でのご参加大歓迎です！



HP



NPO法人 リーブ・ウィズ・ドリーム

防災バリアフリーマップを作成中！

地域住民との意見交換・講習会を通じて、マップを作成し、地域の防災意識向上を目指しています！



HP



チャレンジ部門募集中!

「チャレンジ部門」では、地域の団体等が、自らが文京区の地域課題だと考えるテーマの検証を目指して行うイベント、あるいはキャンペーン事業への助成を行っています。令和5年度のチャレンジ部門は11月頃まで募集中です！（予算に達し次第終了予定）詳細は右側のQRコードからご確認ください。



フミコム Bチャレ



地域連携ステーション フミコム ☎ 03-3812-3044
〒113-0033 文京区本郷4-15-14 文京区民センター地下1階 fumikomu@bunsyakyo.or.jp